

施工方法と施工上の注意

一、施工工具は

- 1、推奨工具の使用が不可欠です。

ドライバードリル(回転専用トルク調整機能付き) 下記は2020.03現在を基にしています。

| | | |
|---|---|--|
| <p>コードレスドライバードリル HiKOKI(旧日立工機) DS18DBL2 18V 0~1,800回転</p>  | <p>充電式ドライバードリル マキタ DF484D 18V 0~2,000回転</p>  | <p>テクス用ドライバ HiKOKI(旧日立工機) W8V 100V 700~1,700回転</p>  |
|---|---|--|

- 2、インパクトレンチ・インパクトドリルは、鉄下地には所要の穴開け及び締結が出来ません。
⇒ネジ破断・リセス及びビットの破損を招きます。

二、普及品及び高耐力品にはナット可動式とナット固定式があります。

⇒適応下地・適応壁厚(締結下地厚さを含む)で品番を選択します。

- 1、外壁材施工時と同じ状態で下地に締結を行います。
⇒目地又はジョイント部から下地に締結するのが基本です。
- 2、ALCパネル・ECP(押出成形セメント板)等で鉄下地の裏にコンクリートの打設がある場合
⇒締結出来ません。ツイン・3WAYタイプを使用して下さい。

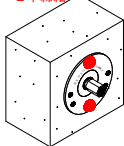
三、外壁材に直接締結するツイン・3WAY・プレコンは、必要な強度を得るため2本(ツイン)、2本・3本・4本(3WAY)締結用があります。(プレコンを除く) ⇒カタログ記載の適応下地・適応壁厚で品番を選択します。

- 1、ALCパネルの場合は、下穴不要です。
- 2、ECPの場合は、別売りECP専用ドリル(ECPD-H51)で中空部分に下穴を開けます。
⇒不使用の場合は、所要の強度が得られないため受注致しかねます。
- 3、コンクリートの場合は、下穴径×深さ目安の穴開けが必要です。
⇒推奨工具はドライバードリル(回転専用トルク調整機能付き)又はインパクトドライバーです。

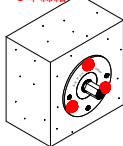
■施工例

ALCパネル(ALC板)

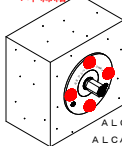
2本締結



3本締結

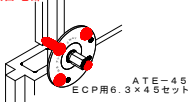


4本締結



ATA-90
ALCパネル用6.3×90セット
ATA-120
ALCパネル用6.3×120セット

ECP(押出成形セメント板)
縦張目地部



ECP(押出成形セメント板)
横張目地部



ATE-45
ECP用6.3×45セット

ATE-45
ECP用6.3×45セット

使用上の注意

GSアシバツナギ 3WAY

| 品番 | 下地厚(mm) | 最大引張強度N(kgf) | |
|----------------------|------------------------|--------------|---|
| ATA-90-2 ALCパネル用 | ALCパネル(ALC板) 100 | 2本締結 | 埋め込み深さ:87mm 圧縮強度3.92N/mm ² 7,240 (738) |
| ATA-90-3 ALCパネル用 | ALCパネル(ALC板) 100 | 3本締結 | 埋め込み深さ:87mm 圧縮強度3.92N/mm ² 10,860 (1,107) |
| ATA-90-4 ALCパネル用 | ALCパネル(ALC板) 100 | 4本締結 | 埋め込み深さ:87mm 圧縮強度3.92N/mm ² 14,480 (1,477) |
| ATA-120-2 ALCパネル用 | ALCパネル(ALC板) 150 | 2本締結 | 埋め込み深さ:117mm 圧縮強度3.92N/mm ² 9,440 (963) |
| ATA-120-3 ALCパネル用 | ALCパネル(ALC板) 150 | 3本締結 | 埋め込み深さ:117mm 圧縮強度3.92N/mm ² 14,160 (1,444) |
| ATA-120-4 ALCパネル用 | ALCパネル(ALC板) 150 | 4本締結 | 埋め込み深さ:117mm 圧縮強度3.92N/mm ² 18,880 (1,925) |
| ATE-45-4 ECP用 | ECP(押出成形セメント板) 50以上 | 4本締結 | 非貫通状態の中空部厚14mm 下穴:別売りECP回転専用ドリル ECPD-H51にて 18,720 (1,909) |

*下穴加工用別売りECP回転専用ドリル ECPD-H51で中空に必ず下穴を開けて下さい。

本体最大強度：17,800N(1,815Kgf)

推力 ALCパネル(ALC板)の場合：5Kgf～10Kgf
ECP(押出成形セメント板)の場合：10Kgf～20Kgf
但し、工具に過大な推力を加えると、回転にブレーキを掛けネジ立ての能率低下を招きます。

- ①(社)仮設工業会編の足場工事マニュアルに準じて、十分な安全率を考慮して下さい。
- ①許容荷重=最大引張強度÷安全率(法令の定め・施工現場の環境を考慮し安全率は2.0以上を目安にして下さい)
- ①機能的には引張強度≠圧縮強度ですが、(社)仮設工業会編の足場工事マニュアル記載の通り、壁当てジャッキの使用は施工案件毎に検討対応が必要です。
- ①付属の専用ビット十字No.3を必ず使用して下さい。
- ①付属の専用ネジは均等に締め付けて下さい。締め過ぎると著しく引張強度の低下やトラブルの原因となります。
- ①劣化したALCパネル(ALC板)又は締め過ぎの場合は、強度低下や使用出来ない場合があります。
- ①壁つなぎの雄ネジ部に傷や錆び等のままで接続しないで下さい。

■適所に各々には、下穴処理ビスがあります。(プレコンを除く)



普及品 AWS・AFS-76
左 ユニコロ 右 ステンめつき



高耐久品 SM・SF8×78
左 ユニコロ 右 ステンめつき



ツイン ATE-45・ATA-90
左 ステンめつき 右 セラミック

イイファス株式会社/株式会社シングテックファスナー

詳しい情報はこちらから <http://www.iifas.jp> Email:sales@iifas.jp